

平成28年10月26日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属中学校
校長 今田 悟

2015年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。

2015年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。

1. 「授業アンケート」の結果

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケートの結果は教員が自らの授業運営の指針として役立ててもらうために、担当クラスごとに結果を渡しています。

「授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか」の質問に、各学年とも85%以上の生徒が「工夫されている」「どちらかという、工夫されている」と回答しており、「授業は、生徒に疑問や質問にきちんと応えていますか」の質問には、やはり各学年とも約90%の生徒が「きちんと応えている」「どちらかという、きちんと応えている」と回答しています。「授業は分かりやすいですか」の質問に1年生、3年生の約90%、2年生の83%が「分かりやすい」「どちらかという、分かりやすい」と回答しており、授業に向けての教員による周到な準備や、生徒の質問に誠実に応えようとする教員の姿勢がこれらの結果に反映されたようです。

また、「授業は、生徒が先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に対しては、「参加しやすい」「どちらかという、参加しやすい」と回答した生徒が約90%、「授業は、先生と生徒の心が触れ合うものとなっていますか」の質問に対しても、「なっている」「どちらかという、なっている」と回答した生徒が約90%となっており、生徒たちが積極的に授業に参加できる雰囲気作りが教員が努めているのがうかがえます。

「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」「授業を受けて、学力がついたと思いますか」「この教科の内容は理解できますか」というそれぞれの質問に対して、8割以上の生徒が肯定的な回答をしています。中学低学年の学習でのつまずきはその後の学習に対する理解力不足につながります。そうさせないためにも色々な切り口から生徒の学問に対する興味・関心を引き出し、学習意欲を喚起し、知識習得、教科の内容理解につながるよう努めていきたいと思っています。

「先生は、授業のルールを守るように注意していますか」の質問には、「注意している」「だいたい注意している」の回答が9割以上となっています。上記質問にあったように教員は「授業に参加しやすい」雰囲気作りはしながらも、授業を受けるにあたって生徒に秩序、規律を守ることを求めているのがうかがえます。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果

「チャイムが鳴ってからトイレや忘れ物を借りに行かない」「教科書、ノート、教材を机の上に出している」の質問に約9割の生徒が「守っている」「だいたい守っている」と回答しており、授業を受けるにあたってのマナーを守ろうと意識していることがうかがえます。ただ、「チャイムが鳴ったら席に着く」の質問には「守っている」「だいたい守っている」の回答が約8割にとどまっています。休み時間に友人とのおしゃべりや遊びに夢中になって、始業時間に着席できていない姿が想像できます。学年が上がるにつれ、自律的な行動が取れるようにするのが課題です。

「授業中にノートをとる」の質問には96%の生徒が「守っている」「だいたい守っている」と回答しています。「ノートをとる」ことは授業を受ける基本であり、授業内容を理解するにあたって必要不可欠な作業であるという意識を持っていることがうかがえます。

「授業に積極的に参加している」の質問にも「積極的に参加している」「どちらかという、積極的に参加している」の回答が約96%と高い数字となっています。一方で「私語をしない」の質問には「守っている」「だいたい守っている」の回答の数字が、他の質問に比べて低くなっています。授業には緊張と弛緩のリズムも大切であり、教師は生徒に積極的に発言を促すなど、意識して緊張を緩めることがあります。それが生徒間の私語を誘発してしまうことがあり、この結果はそうした状況を現しているかもしれません。授業に積極的に参加するのは大切なことですが、きちんとメリハリを意識させ、授業に臨ませたいと思います。

「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問には、「きちんと取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」と91%の生徒が回答しています。しかし、「1日に家庭学習をどの位していますか」の質問への回答では、本校が生徒に求める家庭学習時間には物足りない数字となっています。家庭での学習習慣を身につけさせるためにも、生徒にとって適正な宿題や課題の量を与えていくことが必要といえます。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果

「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に90%の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、このアンケートの質問項目中、最も高い数字となっています。毎朝、各クラス風紀委員が輪番で「あいさつ運動」をおこなっており、生徒が「挨拶をきちんとする」のもそうした活動が大いに一役買っているといえます。

「この学校の生徒は、遅刻しないように努力している」の質問には「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が73%にとどまっていますが、実際には8時35分の始業時間に遅刻する生徒はほとんどいません。ただ、本校では8時35分からの早朝テストに備え、8時25分までに登校することを促しているのですが、それ以後に登校する生徒が少数ですが見受けられます。そうした状況に対し、生徒は厳しい評価をしたと考えられます。

「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」の質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と83%の生徒が回答しています。しかし肯定的な回答は1年生から2年生になると一気に跳ね上がり、2年生では95%となっています。ここから1年生のときの体育祭、文化祭（梧桐祭）、文化発表会などの学校行事に対する取り組みを通じて、2年生以後は自分たちで主体的に取り組めるように成長している様子が見えられます。

「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」の質問に、3年生の95%が肯定的な回答をしています。1年生、2年生と学年を追ってこの数字が上昇しているのは当然の帰結でしょう。

最後に「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」「生徒指導にしっかり取り組んでいる」という質問に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が前者は85%、後者は84%となっています。これは「この学校の生徒指導は、適切であると思う」の質問に対し、「適切であると思う」「だいたい適切であると思う」の86%という数字に対応しています。残りの14%の内訳が「もっと厳しく指導してほしい」が2%で、「もっと丁寧に指導してほしい」が12%であることをみて分かるとおり、なぜ自分が指導を受けなければならないのかということをよく理解させたうえで、指導する必要があるといえます。

以上、3つのアンケートの分析結果を報告させていただきました。上で報告した通り、アンケートの質問に対して生徒がほとんど肯定的に回答してくれており、少しは安堵しています。アンケートの結果を裏付けるように、学校側も生徒たちが、学校生活を明るく前向きに取り組んでくれているのを実感しています。今回のアンケート結果に甘んじることなく、生徒たちが学校生活を通じて、人間的に成長できたと実感できる学校づくりをめざしていきたいと考えています。